

平成 12 年国勢調査 名古屋の学区別人口(確定値)

平成 12 年 10 月 1 日現在で実施された平成 12 年国勢調査の学区別集計(確定値)がまとまりましたので公表します。

学区別人口については、本誌 01 年 1 月号で速報値による人口を、また本誌 03 年 3 月号で昼間人口を掲載しています。

なお、学区別の確定値の統計表は『名古屋の学区別人口』(03 年 3 月刊行)でも掲載していますので、あわせてご利用ください。

Ⅰ 人口増加率
～ 人口増加率のトップは徳重学区(緑区) ～

平成 12 年 10 月 1 日現在で市内 260 学区のうち最も人口が多かったのは荒子学区(中川区)の 21,171 人で、唯一 2 万人を超えている。人口が 15,000 人以上の学区は 9 学区で、このうち 3 学区が千種区の学区となっている。前回調査と比べ、人口増加率が最も高かったのは徳重学区(緑区)の 63.5%で約 3,000 人の大きな増加を示した。以下、志段味西学区(守山区)の 61.6%、大清水学区(緑区)の 41.0%と続き、上位 10 学区のほとんどが本市東部にある学区となっている。

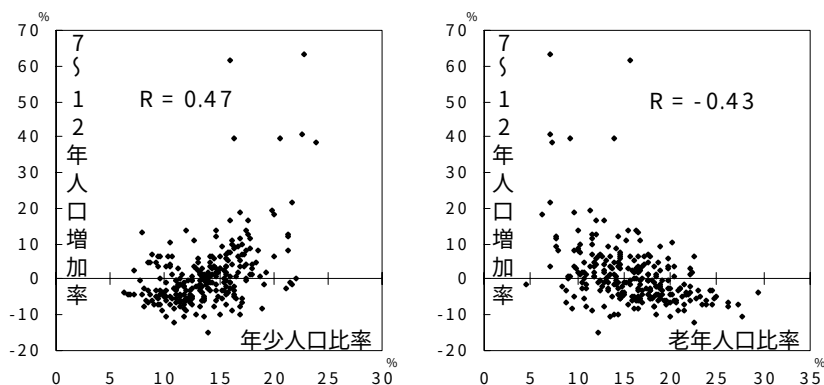
これらを年齢 3 区分別にみると、上位 10 学区のうち、年少人口比率(0～14 歳人口比率)が 20%を超えているのが 6 学区あり、10 学区全てが名古屋市全体の 14.0%を上回っている。逆に高齢人口比率(65 歳以上人口比率)が 10%を下回っているのが 7 学区あり、志段味西学区(守山区)を除く 9 学区で名古屋市全体の 15.6%を下回っている。学区全体の傾向として、人口増加率と年少人口比率には正の相関関係が、老年人口比率には負の相関関係がみられる。

(附表 1、図 1)

附表 1 学区別人口増加率(上位 10 学区)と年齢 3 区分別人口

順位	学区	(区)	人 口		人口増加率 (%)	年 齢 3 区 分 別 人 口			年 齢 3 区 分 別 人 口 比 率 (%)		
			平成 7 年	平成 12 年		0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上	0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上
	全	市	2,152,184	2,171,557	0.9	303,272	1,506,882	338,795	14.0	69.4	15.6
1	徳 重	(緑区)	4,773	7,804	63.5	1,787	5,419	547	22.9	69.4	7.0
2	志 段 味 西	(守山区)	5,090	8,223	61.6	1,315	5,587	1,288	16.0	67.9	15.7
3	大 清 水	(緑区)	5,145	7,253	41.0	1,642	5,069	517	22.6	69.9	7.1
4	鳴 海 東 部	(緑区)	7,326	10,221	39.5	2,110	7,092	944	20.6	69.4	9.2
5	神 の 倉	(緑区)	6,851	9,552	39.4	1,567	6,615	1,340	16.4	69.3	14.0
6	滝 ノ 水	(緑区)	8,089	11,199	38.4	2,682	7,633	816	23.9	68.2	7.3
7	植 田 北	(天白区)	4,962	6,029	21.5	1,317	4,166	428	21.8	69.1	7.1
8	豊 治	(中川区)	8,466	10,107	19.4	2,014	6,916	1,142	19.9	68.4	11.3
9	中 小 田 井	(西区)	8,276	9,840	18.9	1,672	6,854	651	17.0	69.7	6.6
10	植 田	(天白区)	11,661	13,773	18.1	2,762	9,935	868	20.1	72.1	6.3

図 1 人口増加率(7～12 年)と年少人口比率及び老年人口比率の相関図



II 配偶関係

～ 未婚率は中心区で高く、有配偶率は周辺区で高い ～

配偶関係の比率を男女別にみると、男の未婚率では伊勝学区（昭和区）が55.3%と最も高く、次いで大坪学区（天白区）の54.7%、柴田学区（南区）の49.9%、八事東学区（天白区）の47.9%、千石学区（千種区）及び内山学区（千種区）の46.5%となっている。

女の未婚率では内山学区（千種区）及び老松学区（中区）が38.3%と最も高く、次いで鶴舞学区（昭和区）の37.7%、大坪学区（天白区）の37.2%、葵学区（東区）及び滝川学区（昭和区）の36.4%となっている。

一方有配偶率をみると、男では滝ノ水学区（緑区）が73.5%

と最も高く、次いで徳重学区（緑区）の72.2%、戸笠学区（緑区）の71.5%、森孝東学区（守山区）の70.7%、神の倉学区（緑区）の70.6%となっている。

女では徳重学区（緑区）が71.4%と最も高く、次いで滝ノ水学区（緑区）の70.4%、大清水学区（緑区）の68.8%、旭出学区（緑区）の68.5%、牧の原学区（名東区）の67.7%となっている。

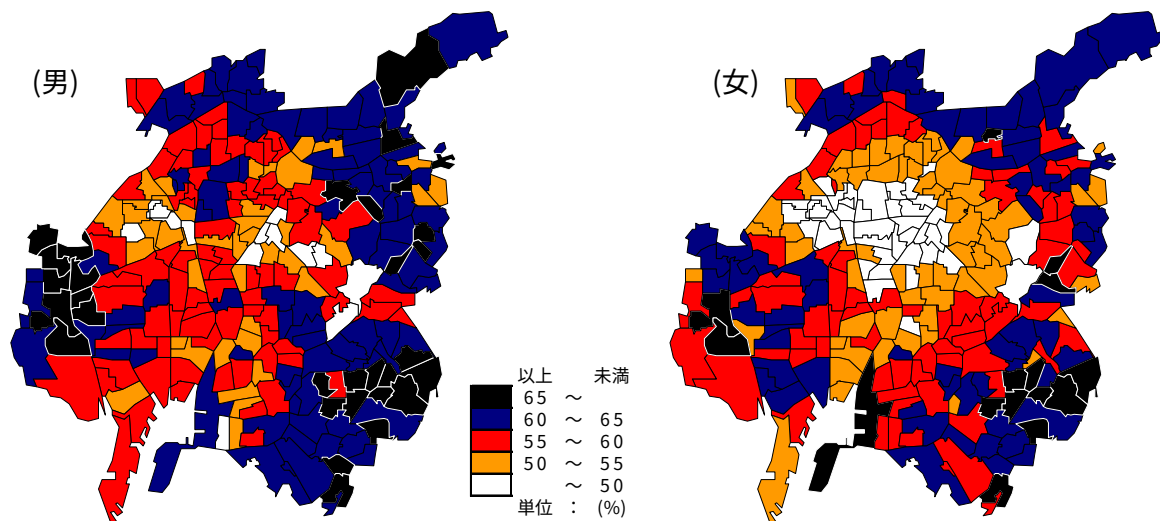
男女ともに総じて、未婚率は中心区で高く、有配偶率は周辺区で高いという傾向がみられる。 [附表2、図2]

附表2 学区別、配偶関係、男女別15歳以上人口(未婚・有配偶)

順位	学区	(区)	男	未 婚	未 婚 率 (%)	順位	学区	(区)	女	未 婚	未 婚 率 (%)
1	伊 勝	(昭和区)	3,780	2,091	55.3	1	内 山	(千種区)	2,712	1,039	38.3
2	大 坪	(天白区)	4,803	2,629	54.7	2	老 松	(中区)	3,902	1,493	38.3
3	柴 田	(南区)	3,117	1,554	49.9	3	鶴 舞	(昭和区)	2,890	1,089	37.7
4	八 事 東	(天白区)	5,887	2,817	47.9	4	大 坪	(天白区)	3,926	1,462	37.2
5	千 石	(千種区)	2,454	1,142	46.5	5	葵	(東区)	2,864	1,043	36.4
6	内 山	(千種区)	2,753	1,281	46.5	6	滝 川	(昭和区)	6,463	2,355	36.4
7	川 原	(昭和区)	4,680	2,127	45.4	7	藤 が 丘	(名東区)	4,647	1,666	35.9
8	本 郷	(名東区)	3,265	1,481	45.4	8	東 桜	(東区)	2,805	1,004	35.8
9	見 付	(千種区)	3,262	1,460	44.8	9	名 城	(中区)	1,880	661	35.2
10	則 武	(中村区)	3,603	1,610	44.7	10	本 郷	(名東区)	2,890	1,017	35.2

順位	学区	(区)	男	有 配 偶	有 配 偶 率 (%)	順位	学区	(区)	女	有 配 偶	有 配 偶 率 (%)
1	滝ノ水	(緑区)	4,125	3,032	73.5	1	徳 重	(緑区)	3,015	2,153	71.4
2	徳 重	(緑区)	2,951	2,132	72.2	2	滝ノ水	(緑区)	4,324	3,043	70.4
3	戸 笠	(緑区)	3,503	2,506	71.5	3	大 清 水	(緑区)	2,833	1,949	68.8
4	森 孝 東	(守山区)	2,109	1,491	70.7	4	旭 出	(緑区)	3,724	2,551	68.5
5	神 の 倉	(緑区)	3,844	2,715	70.6	5	牧 の 原	(名東区)	1,305	884	67.7
6	大 清 水	(緑区)	2,753	1,928	70.0	6	常 安	(緑区)	2,108	1,416	67.2
7	常 安	(緑区)	1,992	1,391	69.8	7	福 田	(港区)	6,331	4,245	67.1
8	桃 山	(緑区)	3,909	2,694	68.9	8	神 の 倉	(緑区)	4,111	2,726	66.3
9	旭 出	(緑区)	3,808	2,607	68.5	9	戸 笠	(緑区)	3,857	2,546	66.0
10	豊 治	(中川区)	3,959	2,700	68.2	10	桃 山	(緑区)	4,137	2,721	65.8

図2 学区別、男女別有配偶率



III 世帯の家族類型・高齢単身世帯・高齢夫婦世帯

～ 核家族世帯比率は市の周辺部で高く、単身世帯比率は市の中心部で高い ～

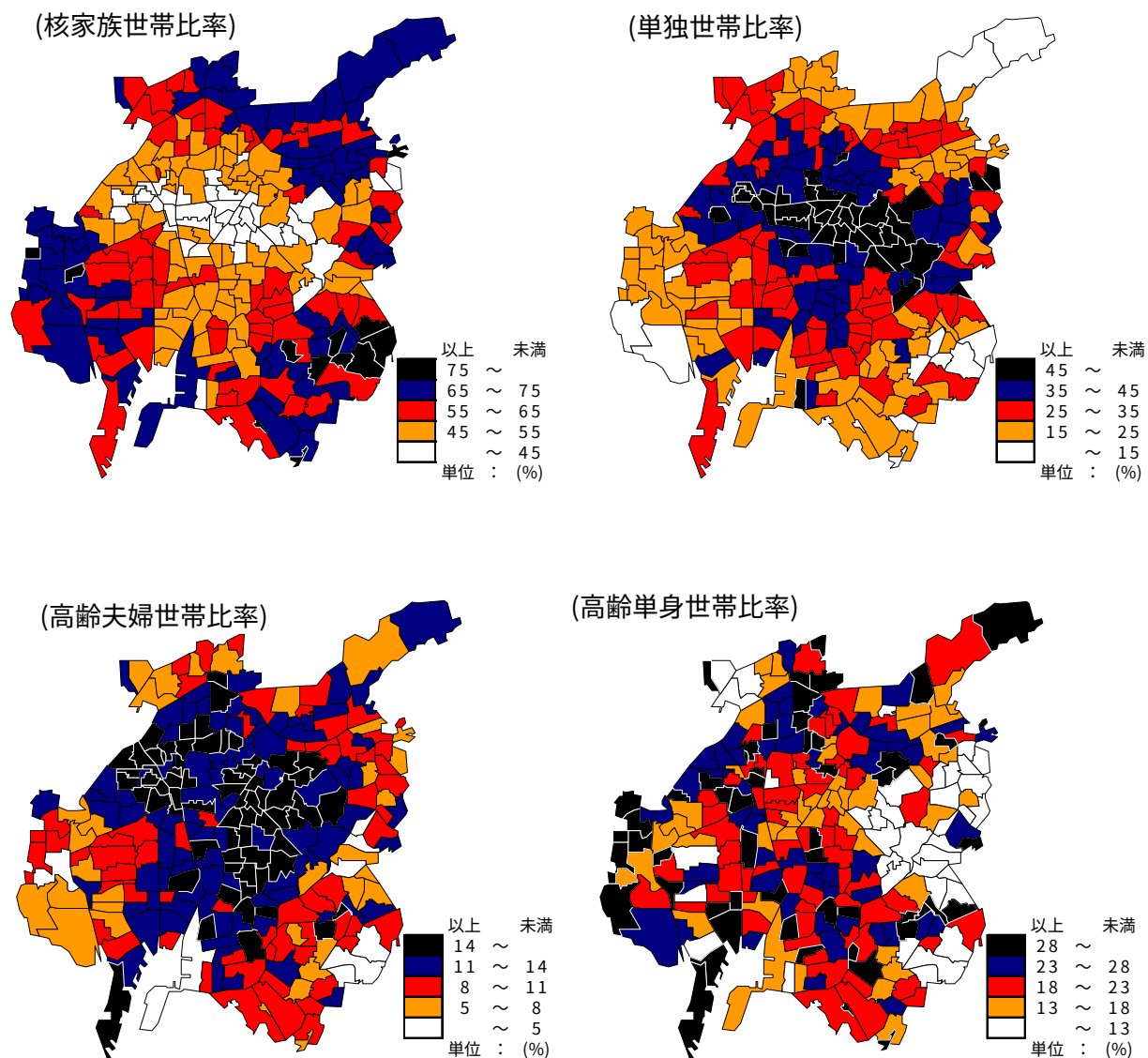
一般世帯に占める核家族世帯及び単身世帯の割合を学区別にみると、核家族世帯比率では大高南学区（緑区）が82.8%と最も高く、全市の56.6%を大きく上回っている。次いで南陵学区（緑区）の82.1%、滝ノ水学区（緑区）の81.2%、常安学区（緑区）の79.7%、長根台学区（緑区）及び桃山学区（緑区）の77.8%、桃山学区（緑区）と続き、上位6学区が緑区である。

単身世帯比率では、内山学区（千種区）が63.7%と最も

高く、全市の34.0%の約2倍となっている。次いで伊勝学区（昭和区）の60.1%、大坪学区（天白区）の58.9%、春岡学区（千種区）と千種学区（千種区）の57.3%と続いている。このように、核家族世帯比率は緑区、中川区などの市の周辺部でそれぞれ高い一方、単身世帯比率は千種区、昭和区などの地下鉄東山線・鶴舞線沿線の市の中心部でほぼ連結して高く、異なった分布の様相を示している。

（図3-1、図3-2、附表3）

図3-1 学区別核家族世帯比率、単身世帯比率、高齢夫婦世帯比率、高齢単身世帯比率



次に、親族世帯に占める高齢夫婦世帯の割合をみてみると、新明学区（中村区）が 20.6%で最も高く、次いで戸笠学区（緑区）の 19.5%、米野学区（中村区）の 19.3%、栄生学区（西区）の 19.1%、御園学区（中区）の 18.8%と続き中心区で比較的高い数値を示している。

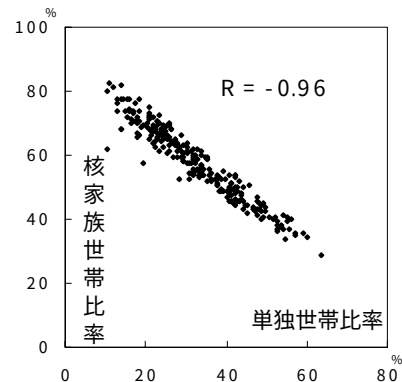
附表3 学区別核家族世帯比率、単独世帯比率、高齢夫婦世帯比率、高齢単身世帯比率（上位10学区）

順位	学区	(区)	核家族世帯数	核家族世帯比率 (%)
1	大高南	(緑区)	1,100	82.8
2	南陵	(緑区)	1,118	82.1
3	滝ノ水	(緑区)	2,888	81.2
4	常安	(緑区)	1,310	79.7
5	長根台	(緑区)	2,355	77.8
6	桃山	(緑区)	2,653	77.8
7	西前田	(中川区)	1,201	77.6
8	森孝東	(守山区)	1,510	77.4
9	徳重	(緑区)	1,929	77.4
10	明正	(中川区)	1,388	77.2
順位	学区	(区)	単独世帯数	単独世帯比率 (%)
1	内山	(千種区)	2,180	63.7
2	伊勝	(昭和区)	2,419	60.1
3	大坪	(天白区)	2,622	58.9
4	春岡	(千種区)	2,641	57.3
5	千種	(千種区)	2,599	57.3
6	本郷	(名東区)	2,092	56.0
7	老松	(中区)	2,449	55.7
8	藤が丘	(名東区)	3,199	55.0
9	柴田	(南区)	1,592	55.0
10	御園	(中区)	519	54.6
順位	学区	(区)	高齢夫婦世帯数	高齢夫婦世帯比率 (%)
1	新明	(中村区)	105	20.6
2	戸笠	(緑区)	505	19.5
3	米野	(中村区)	359	19.3
4	栄生	(西区)	252	19.1
5	御園	(中区)	81	18.8
6	日吉	(中村区)	437	18.7
7	自由ヶ丘	(千種区)	304	18.6
8	中村	(中村区)	374	18.5
9	亀島	(中村区)	204	17.9
10	榎	(西区)	184	17.5
順位	学区	(区)	高齢単身世帯数	高齢単身世帯比率 (%)
1	平針南	(天白区)	190	49.2
2	本地丘	(守山区)	169	46.0
3	浦里	(緑区)	221	45.6
4	正色	(中川区)	155	44.9
5	南押切	(西区)	147	42.0
6	戸笠	(緑区)	209	41.9
7	明正	(中川区)	138	41.8
8	富士見台	(千種区)	541	41.0
9	西前田	(中川区)	87	40.5
10	小碓	(港区)	345	40.5

また、単独世帯に占める高齢単身世帯の割合をみてみると、平針南学区（天白区）が 49.2%で最も高く、次いで本地丘学区（守山区）の 46.0%、浦里学区（緑区）の 45.6%、正色学区（中川区）の 44.9%、南押切学区（西区）の 42.0%の順となっている。

〔図 3-1、附表 3〕

図 3-2 核家族世帯比率と単独世帯比率の相関図



註) 図 1 及び図 3-2 の各相関図における R 値について

R 値は、相関係数(correlation coefficient)と呼ばれ、2つのデータ系列間における相関の程度と方向を表す数値で、 $-1 \leq R \leq 1$ の値をとり、絶対値が大きいほどデータ系列間の相関が強いことを示す。

また、 $R > 0$ のとき正の相関関係があり、 $R < 0$ のとき負の相関関係があるという。

実務的には、おおむね、 ± 0.2 以上の絶対値で相関関係があると解釈できる。

算出式は、以下のとおりである。

2つのデータ系列 X_i 、 Y_i が n 組あり、それぞれの平均を $\bar{X}$ 、 $\bar{Y}$ とする。

$$R = \frac{X_i \text{ と } Y_i \text{ の共分散}}{(X_i \text{ の標準偏差}) \times (Y_i \text{ の標準偏差})}$$

$$= \frac{\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})(Y_i - \bar{Y})}{\sqrt{\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2} \sqrt{\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2}}$$

平均と標準偏差：平均(m ; mean)、分散(V ; variance)及び標準偏差(σ ; standard deviation)について、算出式を示して補足する。

データ系列 X_i ; X_1 、 X_2 、 $\dots$ 、 X_n について、

$$\text{平均}(m) = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n X_i \rightarrow \text{データの重心}$$

$$\left. \begin{aligned} \text{分散}(V) &= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (X_i - m)^2 \\ \text{標準偏差}(\sigma) &= \sqrt{V} \end{aligned} \right\} \text{データの散らばり}$$

IV 住宅の所有の関係・住宅の建て方

～ 持ち家率は緑区の学区で特に高い ～

住宅に住む一般世帯のうち持ち家世帯の割合をみてみると、志段味東学区（守山区）が85.9%と最も高く、次いで西福田学区（港区）の84.8%、正色学区（中川区）の80.7%と続き3学区が80%を超えている。緑区は上位10学区のうち7学区を占めている。〔附表4-1、図4-1〕

附表4-1 学区別持ち家率（上位10学区）

順位	学区	(区)	持ち家	持ち家率 (%)
1	志段味東	(守山区)	2,144	85.9
2	西福田	(港区)	1,116	84.8
3	正色	(中川区)	1,420	80.7
4	戸笠	(緑区)	2,469	79.9
5	神の倉	(緑区)	2,386	76.5
6	有松	(緑区)	2,225	76.5
7	常安	(緑区)	1,216	74.1
8	桶狭間	(緑区)	1,474	72.9
9	大高北	(緑区)	1,960	72.2
10	黒石	(緑区)	1,188	71.8

図4-1 学区別持ち家率

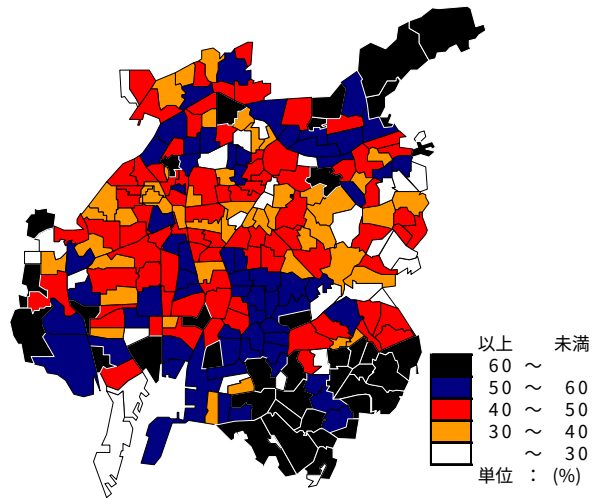


図4-2 学区別、一戸建と共同住宅の割合

次に、住宅の建て方別に住宅に住む一般世帯の割合をみると、一戸建ての割合では西福田学区（港区）が88.0%と最も高く、次いで志段味東学区（守山区）の87.5%、正色学区（中川区）の78.5%と続き、持ち家率の高い上位2学区が同様に80%を超えて上位を占めている。

共同住宅の割合をみると、砂田橋学区（東区）が98.7%と最も高く、以下野跡学区（港区）の98.6%、本地丘学区（守山区）の97.4%、南陵学区（緑区）及び平針北学区（天白区）の94.9%と続き、計9学区で90%を超えている。

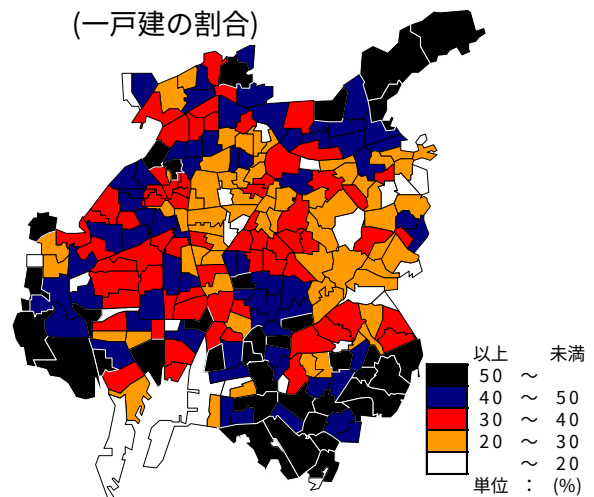
〔附表4-2、図4-2〕

附表4-2 学区別、一戸建と共同住宅の割合（上位10学区）

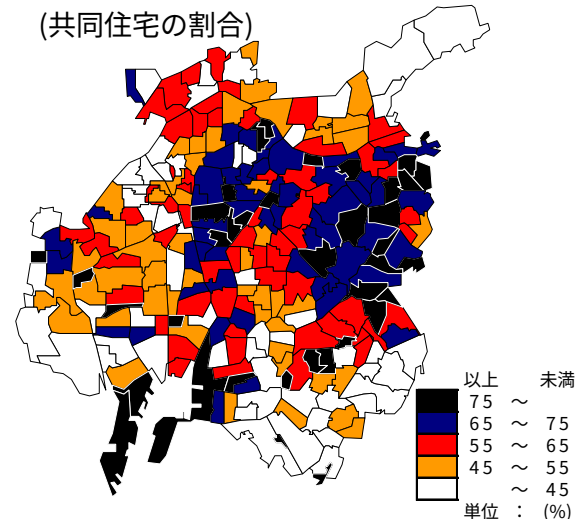
順位	学区	(区)	一戸建	一戸建の割合 (%)
1	西福田	(港区)	1,158	88.0
2	志段味東	(守山区)	2,184	87.5
3	正色	(中川区)	1,380	78.5
4	神の倉	(緑区)	2,406	77.2
5	桶狭間	(緑区)	1,507	74.6
6	戸笠	(緑区)	2,248	72.8
7	戸田	(中川区)	1,763	69.8
8	白沢	(守山区)	1,983	67.9
9	大高北	(緑区)	1,831	67.5
10	大高	(緑区)	1,889	65.2

順位	学区	(区)	共同住宅	共同住宅の割合 (%)
1	砂田橋	(東区)	2,489	98.7
2	野跡	(港区)	1,298	98.6
3	本地丘	(守山区)	1,697	97.4
4	南陵	(緑区)	1,292	94.9
5	平針北	(天白区)	3,418	94.9
6	東築地	(港区)	3,513	94.8
7	明正	(中川区)	1,691	94.0
8	大高南	(緑区)	1,239	93.3
9	浦里	(緑区)	2,044	90.4
10	植田南	(天白区)	5,163	88.4

(一戸建の割合)



(共同住宅の割合)



用語の解説

ここでは、本文中において用いられている用語のうち、主に計算により求められるものを掲載します。ここで触れていない用語についての詳細は、総務省の発行する『平成12年国勢調査報告』や本市の発行する平成12年国勢調査に関する各種刊行物を参照してください。

人口増加率

人口増加率（平成7年～平成12年）とは、その間の人口増加数を平成7年人口で除したもので、以下の式で算出する。

$$\text{人口増加率} = \frac{(\text{平成12年人口} - \text{平成7年人口})}{\text{平成7年人口}} \times 100$$

未婚率・有配偶率

未婚率とは、15歳以上人口総数に占める未婚者数の割合を、また、有配偶率とは15歳以上人口総数に占める有配偶者数の割合をいい、それぞれ以下の式で算出する。

$$\text{未婚率} = \frac{\text{未婚者数}}{15\text{歳以上人口総数}} \times 100$$

$$\text{有配偶率} = \frac{\text{有配偶者数}}{15\text{歳以上人口総数}} \times 100$$

核家族世帯比率・単独世帯比率

核家族世帯比率とは、一般世帯数に占める核家族世帯数の割合を、また、単独世帯比率とは一般世帯数に占める単独世帯数の割合をいい、それぞれ以下の式で算出する。

$$\text{核家族世帯比率} = \frac{\text{核家族世帯数}}{\text{一般世帯数}} \times 100$$

$$\text{単独世帯比率} = \frac{\text{単独世帯数}}{\text{一般世帯数}} \times 100$$

高齢夫婦世帯比率・高齢単身世帯比率

高齢夫婦世帯比率とは、親族世帯数に占める高齢夫婦世帯数の割合を、また、高齢単身世帯比率とは単独世帯数に占める高齢単身世帯数の割合をいい、それぞれ以下の式で算出する。

$$\text{高齢夫婦世帯比率} = \frac{\text{高齢夫婦世帯数}}{\text{親族世帯数}} \times 100$$

$$\text{高齢単身世帯比率} = \frac{\text{高齢単身世帯数}}{\text{単独世帯数}} \times 100$$

住宅の所有の関係、住宅の建て方

住宅に居住する一般世帯について、住宅の所有の関係を次のとおり区分している。

- ① 持ち家 ② 公営・公団・公社の借家 ③ 民営の借家
④ 給与住宅 ⑤ 間借り

また、各世帯が居住する住宅の建て方を次のとおり区分している。

- ① 一戸建 ② 長屋建 ③ 共同住宅（1・2階建）
④ 共同住宅（3～5階建） ⑤ 共同住宅（6～10階建）
⑥ 共同住宅（11階建以上）

持ち家率

持ち家率とは、住宅に住む一般世帯数に占める持ち家世帯数の割合をいい、以下の式で算出する。

$$\text{持ち家率} = \frac{\text{持ち家世帯数}}{\text{住宅に住む一般世帯数}} \times 100$$

一戸建の割合・共同住宅の割合

一戸建の割合とは、住宅に住む一般世帯数に占める一戸建の世帯数の割合を、また、共同住宅の割合とは住宅に住む一般世帯数に占める共同住宅の世帯数の割合をいい、それぞれ以下の式で算出する。

$$\text{一戸建の割合} = \frac{\text{一戸建の世帯数}}{\text{住宅に住む一般世帯数}} \times 100$$

$$\text{共同住宅の割合} = \frac{\text{共同住宅の世帯数}}{\text{住宅に住む一般世帯数}} \times 100$$

学区

学区とは、小学校の通学区域であり、次頁の図のとおりである。平成12年10月1日現在で、総数は260となっている。ただし、中区のみ国勢統計区の区域を用いている。

- 【注意】 1 統計表中の内訳数値は、表章単位未満を四捨五入しているため、その合計は総数と必ずしも一致しない。
- 2 統計表中の記号については、以下のとおりである。
- 「0.0」 単位未満
- 「—」 該当数値のないもの

図 学区名称一覧（平成 12 年 10 月 1 日現在）

